

<9/23 典礼担当者研修会出席者の感想・要望等>

|   |    |  |
|---|----|--|
| 1 | 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>侍者の細やかな動きなどを知りたいので、早めの集まりを望みます。</li> </ul>  |
|   | 返信 | <ul style="list-style-type: none"> <li>2025 年度以降も侍者研修を含めて必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含めて小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。</li> </ul>   |
|   | 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>初めて典礼研修会に参加できて大変参考になりました。多くの人が参加できるよう案内も、回数も増やしていただければ嬉しいです。</li> <li>ミサの動作、立つ、座る等を合わせる・・・日本人向けの指導でしょうか。多国籍の教会で動作を合わせることは困難なことの様に思います。聖体拝領も口で受けるか手で受けるかも曖昧です。</li> <li>ベール着用が曖昧ですが、受洗者に対してどの様にお話をしたらよいのか。高額なベールが負担に感じる人もいます。</li> </ul>   |
| 2 | 返信 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。2025 年度以降も研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含めて小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽の涵養にも取り組んでください。</li> <li>ミサ中の動作については日本の司教団が決め、日本国内のミサで適用され、外国籍、多国籍は関係ありません。<br/>2015 年 6 月 15 日発行の「新しい『ローマ・ミサ典礼書総則』に基づく変更箇所—2015 年 11 月 29 日（待降節第 1 主日）からの実施に向けて」（カトリック司教協議会著）には以下の記載があります。<br/><b>動作・姿勢</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>司式者を含むすべての参加者の動作や姿勢が、ミサに祭儀全体の美しさや簡素さを大切に、すべての人の行動的参加を促すものとなるよう考慮します。<br/>個人的な好みや自由裁量によって決めることは望ましくありません。</li> <li>参加者一同が共通の姿勢を守ることによって、祭儀に集まったすべての人の一致がしるしとして表されます。</li> <li>日本の適応として、ミサの中では立つことと座ることを基本的な姿勢とします。立つことが定められている場合でも、健康上の理由がある場合は座ることができます。</li> <li>日本の適応として、パンとぶどう酒の聖別のとき、会衆はひざまずくのではなく立ったまま手を合わせます。そして、聖別の祈りの後、司祭・助祭とともに手を合わせて深く礼をします。</li> <li>動作や姿勢について、司牧者は折にふれて説明する機会を設けるよう心がけます。<br/>また、2014 年 11 月 1 日発行の「日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針」（カトリック司教協議会著）には以下の記載があります。<br/><b>拝領のときの姿勢について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>3 拝領者の姿勢については、信者は司教協議会の決定に従って、ひざまずくか立って拝領する（※2）とさだめられている。これに基づき、日本においては、ミサが行われる場所の事情、ならびに拝領者が特別な理由により立つことが出来ない場合を除いて、原則として立って拝領することとする。これは、一同が同じ姿勢で拝領することによって、ミサに集まった会衆の一致のしるしとして表す（※3）とともに、拝領のための行列が円滑に流れるようにするためである。しかしながら、ひざまずいて聖体を受けることを望む信者に対して、そのことだけを理由に聖体授与を拒むことは出来ない。<br/><b>聖体を手を受けることについて</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>5 日本司教協議会は、聖体を手を受ける許可を 1970 年 6 月 20 日付で教皇庁典礼聖省に申請し、同年 6 月 27 日付でその許可を受けた。聖体を手を受ける場合の具体的な方法については、以下の 11 に示す。<br/><b>聖別されたパンのみによる拝領</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>11 聖体を手を受けることを望む拝領者は、～ ～手を合わせて司祭の前に立つ。そして片方の手のひらを上にし、その下にもう片方の手を添えて両手を差し出す。司祭は聖体を取り上げ、拝領者に示しながら、「キリストの御からだ」と言い、拝領者が「アーメン」と答えると、聖体を拝領者の手の上に置く。拝領者は次の拝領者のために脇に寄り、片方の手の指で聖体をうやうやしく取り上げ、片方の手を添えながら聖体を口に入れ、その場ですべてを拝領して席に戻る（※22）。</li> <li>12 聖体を口に受けることを望む拝領者は、～ ～手を合わせて司祭の前に立つ。司祭は聖体を取り上げ、拝領者に示しながら、「キリストの御からだ」と言う、奉仕者が拝領者の口の下に添える拝領用の受け皿は、ホスティアまたはそのかけらの一部が落下する危険を避けるために維持されることとする（※24）。拝領者は「アーメン」と答えて聖体を口に受けると、次の拝領者のために脇に寄り、その場ですべてを拝領して席に戻る。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>ベールに関しては、代父母が受洗者にその背景と現状（特に自小教区の現状）をご説明し、購入の判断を受洗者に委ねては如何ですか。</li> </ul> </li></ul></li></ul> |

|    |    |  |
|----|----|--|
| 3  | 感想 | ・今回はオルガニストの研修会を行って頂きたいです。  |
|    | 返信 | ・2025 年度以降も侍者研修を含めて必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。   |
| 4  | 感想 | ・ミサ曲、式次第の歌などあたしくなったので、その研修会をして頂きたい。  |
|    | 返信 | ・2025 年度以降も幾つかの研修開催を検討しています。   |
| 5  | 感想 | ・定期的に典礼の研修会が必要と思います。(侍者、聖体、集会祭儀)   |
|    | 返信 | ・2025 年度以降も侍者研修を含めて必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。   |
| 6  | 感想 | ・このような機会を与えて下さりありがとうございます。典礼部員のみでのご都合のようで、信者に声かけがありませんでした。私は典礼部員ではありませんが、もれ聞いて参加出来ました。典礼は洗礼を受けたものばかりではなく、全ての者に開かれているものと思っていましたが、中にはそうゆう考えている方もいるのを知りました。(でも、委員会の方々、司祭の方々の考えだったのでしょうか)。どうか、私たちにもこれからも機会をお与え下さいますように。ありがとうございます。典礼に対する心を限定しないで声掛けをして下さいませんか。   |
|    | 返信 | ・本研修の主旨は「小教区典例担当者を通じた小教区の典礼環境活性」ですので、対象を典礼担当者としました。一方で、小規模小教区等では正式典礼部員の不在や、典礼担当者が複数の役務を担っている等の理由により、典礼担当者以外の方が出席するケースもありました。要するに不必要な限定はしていませんので小教区内で良く話し合い情報を共有してください。   |
| 7  | 感想 | ・ミサ式次第の改訂について、小教区信徒にどの様に伝えればよいのか、その方法が重要だと思います。典礼部員から全体に伝える機会を設けるのか、先唱者から伝えてもらうのがよいのか、悩みます。ただ、ここが肝心な部分だと思うのです。ひとり一人の信徒にまでおとすことが、これまでも不十分でしたから、この部分の確認を地区でも押さえていく必要があると思います。  |
|    | 返信 | ・小教区内の典礼方針共有は、原則として主任司祭、運営委員長、典礼部長の役割です。なお、重層性が高い小教区では方針徹底が容易ではないと思いますが、例えば層別に近隣小教区と連携して情報提供するという方法も考えられます。  |
| 8  | 感想 | ・今日はありがとうございました。侍者の研修会の開催宜しく願います。感謝のうちに。   |
|    | 返信 | ・2025 年度以降も侍者研修を含めて必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。   |
| 9  | 感想 | ・参考になりましたが、引用した本が手元にないため講演内容が解りづらかった。  |
|    | 返信 | ・主本は昨年にカトリック中央協議会から案内がありました「感謝の祭儀を祝う 新しい『ミサの式次第』解説』（カトリック中央協議会発行）です。購入未済の場合は購入をご検討下さい。なお、他の関連本も最終ページでご案内していますので、併せてご検討下さい。   |
| 10 | 感想 | ＜オルガン担当です＞<br>・平和の賛歌の歌い出しタイミングが取りづらいです。司祭のパンの分割が見えず、聖体奉授と奉仕者が聖櫃からチボリウムを取り出すまで司祭は待機されているように見受けられます。(平和のあいさつ後) この間、間延びする感じです。<br>パンの分割が始まる前に(平和のあいさつ後) 平和の賛歌を始めて良いですか？<br>・復活徹夜祭の典礼順序(答唱詩編、栄光の賛歌など)が主日ミサと異なります。理由、歴史的経緯等の説明をして頂けると記憶しやすいです。  |
|    | 返信 | ・パンの分割前に平和の賛歌を始めても問題ありません。因みに、北一条教会では「平和のあいさつ」が終わり一呼吸おいてオルガン演奏を始めています。他の小教区からも同様の話を伺っています。なお、平和の賛歌は思った以上に長いので、司祭がパンを裂いている途中で終わるようなことはありません。<br>・復活徹夜祭の典礼順序が主日ミサと異なるのは、ローマ・ミサ典書総則に「聖週間の『聖なる過越しの3日間』の中心を復活徹夜祭におき、復活の主日の『晩の祈り』で閉じる」とに記されているように、復活徹夜祭がキリストの過ぎ越しを強く印象付ける特別な典礼だからと思われる。<br>なお、歴史的経緯は時間的余裕ができてから調べます。昔、復活徹夜祭は日曜日の午前0時に始まり、朝まで徹夜して主の復活を祝う祭儀が行われてきました。ヨーロッパ、特にスペインでは今でも6時間にも及ぶミサを行う教会が多く残っていますが、日本では全く見かけなくなりました。 |
| 11 | 感想 | ・ミサの説明はわかりやすく勉強になりました。<br>・ミサと集会祭儀の違い、主日でミサの無い日に集会祭儀を行う意義などについて知りたかったです。<br>・各質問に対し、ていねいにお答えいただきありがとうございました。   |

|    |    |  |
|----|----|--|
|    | 返信 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会で使用した質疑応答一覧は、後日、記載内容の再検証を行い教区HPに「典礼Q&amp;A」として掲載予定です。その際に新たな質疑についても説明を行う予定です。</li> <li>・典礼憲章 106に「教会は、キリストの復活の日に怪訝を持つ使徒の伝承により、過ぎ越しの神秘を八日目ごとに祝う。この日はそれゆえにこそ、主の日すなわち主日と呼ばれる。それは～神に感謝をささげるためである。」とあります。それほど大事な主日のミサが出来なくなり、それでも「主の復活を想起する集会を開きたい」と願った時、許されているみ言葉の祭儀、ご聖体を頂くために集まって行るのが「主日の集会祭儀」です。それはキリスト教の伝統に基づいて主の日を祝い、そして生きることです。</li> </ul> |
| 12 | 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・神父様、皆様、お疲れさまでした。知っていたようで、わからなかった（理解していなかった）ことなど学べて良かったです。また、このような機会を共有できることは必要と思いました。</li> <li>・ミサの準備をすると時に、司祭によってやり方が異なる時とまどいます。特に、病者の塗油など、優しく教えていただければうれしいです。無知な子羊より。</li> </ul>   |
|    | 返信 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。</li> <li>・2022 年 11 月に発行された司式者用の儀式書「ミサの式次第」（カトリック中央協議会発行）からは司式司祭に多くの裁量が与えられていることが読み取れます。司祭によって司式スタイルが異なることは自然の流れですが、信徒の間の戸惑いがありにも大きい場合は主任司祭と丁寧な話し合いをすることも必要と思います。</li> </ul>   |
| 13 | 感想 | ・寒かったので途中で退席しました。  |
|    | 返信 | ・残念です。   |
| 14 | 感想 | ・いつも私達の教会で行っていることで少し違っているところ（先唱と会衆の祈り、頭を下げる所）がありました。定期的な勉強会を持つことは大切だと思います。   |
|    | 返信 | ・研修会で学んだことの小教区内共有にも取り組んでみて下さい。   |
| 15 | 感想 | ・大変有意義な時間でした。皆さん質問したいことが沢山ありなんですね。自分で調べるという姿勢も必要だと自省しました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。仰る通り自分で調べる姿勢は大事です。今回の研修では、比較的規模の大きな小教区に「分かっている、共に学ぶ仲間のために質問をして下さい」とお願いしていました。  |
| 16 | 感想 | ・わかりやすかった。   |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。   |
| 17 | 感想 | ・典礼をより深く理解することにつながる会だと思います。この内容を多くの信徒と共有できるといいですね。   |
|    | 返信 | ・ありがとうございます、2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。  |
| 18 | 感想 | ・改めてミサの流れを解説していただき参考になりました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。   |
| 19 | 感想 | ・「ともにささげるミサ」に関する説明、皆さん方の質問事項、大変参考になりました。これからの典礼に生かしていきたいと思います。   |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。宜しく願いいたします。  |
| 20 | 感想 | ・大変良かったです。この様な機会がもっとあればと思います。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます、2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。  |
| 21 | 感想 | ・ありがとうございました。  |
|    | 返信 | ・参加して頂きありがとうございました。  |
| 22 | 感想 | ・いつも習慣的に行っていたことが明らかになり、勉強になりました。たくさんの教会の方が集まって確認でき良かったと思います。知らなかったこと、間違っていて覚えていたこともありました。教会での運営会議で伝えたいと思いました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。小教区内の共有、理解浸透、研鑽意識の涵養は安易ではないと思います。宜しく願い致します。  |
| 23 | 感想 | ・多くの質問に説明して下さり大変な作業だったと想像すると共に、ありがたく感じております。そして「大変な作業」と理解しながらも、また、この機会を作って頂ける事を願っています。おそらく、まだまだいろいろな疑問、質問が出てくると予想されるからです。今まで疑問に感じる事も無かった点を改めて確認でき、貴重な時間を持てたと感謝しております。ありがとうございます  |

|    |    |   |
|----|----|---|
|    |    | ました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます、2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。また、新たな疑問点がありましたら遠慮なく事務局にお尋ねください。<br>研修会で使用しました質疑応答一覧は、後日、記載内容の再検証を行い教区HPに「典礼Q & A」として掲載予定です。その際に新たな質疑についても説明を行う予定です。 |
| 24 | 感想 | ・初めての参加で勉強になりました。感謝申します。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。  |
| 25 | 感想 | ・参考になりました。ありがとうございました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。  |
| 26 | 感想 | ・質問コーナー、良かったです。定期的にやってほしいです。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。また、研修会で使用した質疑応答一覧は、後日、記載内容の再検証を行い教区HPに「典礼Q & A」として掲載予定です。その際に新たな質疑についても説明を行う予定です。                                    |
| 27 | 感想 | ・今日はありがとうございました。今後、典礼委員をやめても、また委員でなくても研修に参加できる機会を望んでいます。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。来年度以降も様々な研修会開催を検討する予定です。一方で、研修会に参加した皆様には、小教区内での共有に取り組んで頂ければと思います。   |
| 28 | 感想 | ・ありがとうございました。1 から勉強させていただきました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。  |
| 29 | 感想 | ・今回は有意義な講義ありがとうございました。今後も、侍者会、先唱者に対する講習会をお願いします。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。2025 年度以降も侍者研修を始め必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。  |
| 30 | 感想 | ・前回、マイクがよく聞こえなかったが今回はよく聞こえた。ありがとうございます。   |
|    | 返信 | ・北一条教会の典礼の方が対応して下さいました。   |
| 31 | 感想 | ・初めての参加でしたが、解り易く為になりました。改めてミサの中の意味を沢山知ることができました。とかくミサに慣れて気持ちが入らないことが多かったのですが、ミサの意味を理解して集中しようと思いました。この研修会に参加して良かったです。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。私もまったく同じ気持ちを持っていました。  |
| 32 | 感想 | ・ありがとうございました。大変実り深い時間になりました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。  |
| 33 | 感想 | ・とても勉強になりました。時間が短くとても残念です。神父様も忙しいので無理かもしれませんが、午後の部もあつたら良いと思いました。いろいろ準備ありがとうございます。感謝です。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。何人かから「時間が短かった」というお声があり次回の参考に致します。   |
| 34 | 感想 | ・実りの多い時間でした。ありがとうございました。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。  |
| 35 | 感想 | ・わかりやすくとても良かったです。ありがとうございました。   |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。  |
| 36 | 感想 | ・数多くの質問に対する説明は、大変深い信仰と学識に裏付けられた素晴らしい説明だと思えます。短期間に作成された方々に深い敬意と感謝を申し上げます。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。典礼は奥が深く、ただ定型の祈りと所作を正しく行えば良いという訳ではありません。研修会の案内で触れました「地上の典礼において、われわれは天上の典礼を前もって味わってこれに参加している。天上の典礼～そこにはキリストが、聖所と真の幕屋の奉仕者として神の右の座に座しておられる」＜典礼憲章第8章要約＞を皆さんと共有したいと思います。                                  |
| 37 | 感想 | ・佐藤神父様、1 週間の教区司祭黙想会が 21 日の午前に終わり、同日午後の小樽教会運営委員会、堅信勉強会、円山教会の夜ミサ、22 日は山鼻教会での主日ミサの後、午後から白石墓地、里塚墓地での教区合同墓参など終日予定をこなされたと同いました。大変お忙しい中でこの様な典礼   |

|    |    |  |
|----|----|--|
|    |    | 担当者の研修会の準備をして頂きありがとうございました。講義も質問へのお答えも解り易く大変勉強になりました、感謝いたします。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。   |
| 38 | 感想 | ・今日はとても解り易い研修会でした。いつまでも実が結ばれ、共に分か合いたいです。このような研修会があったらいいと思います。  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。  |
| 39 | 感想 | ・何点か変更になっていたが、(私たちの教会では) 以前の内容のまま実施していた。<br>1) 「平和の賛歌」のあとの「世の罪を取り除く神の子羊・・・」が先唱から会衆に変更になっていたが、教会では以前のまま先唱者が最初の箇所を唱えている。<br>2) 「回心の祈り 一」・・・司「全能の神と」会「兄弟姉妹の皆さんに告白します。…」この時、唱え始めから「アーメン」まで、手を合わせて頭を下げますが、下げていない人が多い。<br>3) 侍者の鐘を鳴らす回数が4回ではなく6回鳴らしている。                                  |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。「回心の祈り」で日本版の「たびたび罪を犯しました」の箇所は、ラテン語規範版テキストでは「mea culpa, mea culpa, mea maxima culpa.」(私の過ちによって、私の過ちによって、私の大いなる過ちによって) と三度繰り返されているそうです。繰り返すことで、自分の罪を強調し、行いを深く反省し後悔するのですが、このようなとき多くの方は自然と頭を下げると思います。<br>・カンパヌラはあくまでも注意喚起ですが、研修では「司祭が祈りを捧げているときは鳴らさなように」との話がありましたのでお含み下さい。 |
| 40 | 感想 | ・佐藤謙一神父様に各教会を廻っていただき、教えて欲しい。それが無理であれば今回のような研修会を何回か開催継続してほしい。   |
|    | 返信 | ・ありがとうございます、2025 年度以降も必要な研修の開催を検討しています。一方で、研修会で学んだことを含め小教区内で種々の情報を共有し、相互研鑽意識の涵養にも取り組んでください。  |
| 41 | 感想 | ・「過越の神秘」の大切さをあらためて感じる事ができた。美しい典礼とともに捧げる至極を味わっていきたく感じた。   |
|    | 返信 | ・ありがとうございます。   |
| 42 | 感想 |  |
|    | 返信 |  |
| 43 | 感想 |  |
|    | 返信 |  |

## 【 書籍紹介 】

### 「香部屋係のハンドブック -主よ、どこに過越の準備を-」(2018年4月 教友社発行)

香部屋係のためのハンドブック。広島教区の白浜司教が福岡サンスルピス大神学院で典礼学を教えておられたとき「カトリック新聞」に連載した記事と、長年、香部屋係として奉仕してこられた信徒の齊藤賀壽子さんの体験メモが一つになった書籍。

### 「シンボルで味わう典礼、礼拝」(2024年4月再販 宮越利光著 日本基督教団出版局発行)

多くのシンボルで彩られている典礼の所作、司式者の服装、典礼職などの由来と変遷、現在の持ち入れられ方が紹介されている。一つ一つのシンボルに込められた意味を味わうとき、日々の典礼・礼拝がさらに豊かになる

### 「感謝の祭儀を祝う 新しい『ミサの式次第』解説」(2023年8月 カトリック中央協議会)

新しい「ミサの式次第」実施準備のため「カトリック新聞」に連載された日本カトリック典礼委員会委員による変更箇所についての解説に適宜修正や加筆を施し、より深い理解のためのテキストとして再構成。

### 「典礼奉仕への招き—ミサ・集会祭儀での役割—第2版—」

(2016年5月 オリエンス宗教研究所発行)

すべての信者が招かれている典礼奉仕の役割を理解し、実践するためのポイントをまとめました。祭壇奉仕や聖体奉仕ばかりでなく、障害をもつ方や高齢者、外国籍の信者の方とともに典礼をささげる場合、子どもの信仰教育とミサとの結びつき、「司祭不在のときの主日の集会祭儀」などについてもわかりやすく解説。

### 「朗読聖書の緒言」(1998年6月 カトリック中央協議会発行)

教皇庁秘跡典礼聖省が1981年に発表した、「ミサの朗読配分」第2版の緒言。ミサの聖書朗読の意義や構造を理解し、その豊かさを味わうための参考書として、朗読奉仕にあたるすべての人にとって必読の書。

### 「ミサがわかる 仕え合う喜び」(2015年4月第8刷 オリエンス宗教研究所発行)

ミサ典礼を行う際に、祭壇奉仕者が理解しておくべき内容(役割・実践)を、豊富な図でやさしく説明されていて、典礼に直接かかわる奉仕者や、新たに典礼委員になった信徒の参考書

### 「教会歴と聖書朗読」(毎年10月 カトリック中央協議会発行)

日本の教会のために毎年10月に編集・発行されている典礼暦。1年間の典礼日の種類や祭服などの色、ミサの聖書朗読箇所や答唱詩編・アレルヤ唱の『典礼聖歌』の番号、祈願の『ミサ典礼書』のページ番号、叙唱の『ミサの式次第』のページ番号などが掲載されている。また、聖歌を選ぶ基準やヒントを記した「ミサの聖歌を選ぶために」「典礼聖歌による聖歌案」も収録。

### 「典礼暦年と典礼 暦に関する一般原則」(2004年9月 カトリック中央協議会発行)

以前に発行された『ミサ典礼書の総則と典礼暦年の一般原則』の「典礼暦年の一般原則」部分を独立させて編集したもの。従来の訳から大きな変更はないが、「一般ローマ暦」にはその後追加された新しい記念日が付け加えられている。神学教育、信徒の奉仕者の養成、典礼の勉強会などに活用できる。

### 「ミサの式次第」(2022年11月 カトリック中央協議会発行)

2022年11月27日(待降節第一主日)から実施される新しい式文によるミサのための司式者用の儀式書。巻頭には「ローマ・ミサ典礼書の総則」が収録されている。「ミサの式次第と第一～第四奉献文」「ミサの結びの祝福と会衆のための祈願」「水の祝福と灌水」に加え、現行『ミサ典礼書』の叙唱と「ゆるしの奉献文」を収録。

### 「キリストの神秘を祝う 典礼暦年の霊性と信心」(2015年6月発行 日本カトリック典礼委員会編)

「典礼暦年の霊性と司牧」(2009年)、および「典礼暦年と信心」(2010年)のテーマで開催された全国典礼担当者会議での講演の記録。『典礼憲章』の精神に基づいて刷新された典礼暦年の霊性と、典礼との結びつきを忘れず適切に執行されることで信仰生活を豊かにする信心について学ぶための格好のテキスト。

### 「教会の祈りの総則」(2023/6 日本カトリック典礼委員会翻訳・編集)

現行の『教会の祈り—新しい聖務日課』に収められている総則に対し、大幅な修正は施さずとも、公会議公文書の引用を改訂公式訳に、聖書の引用を新共同訳に差し替え、規範版第2版に基づく修正を反映し、用字や表現等を一部改めたもの。